

授業科目	地域・在宅看護概論	担当 教員	外部講師 専任教員	単位数	1	時期	1年次 4月～
				時間数	15		
<p>目的：地域での暮らしと、地域で支えあう人々について理解する。</p> <p>目標：1) 地域の特徴と生活する人々を理解する。</p> <p>2) 地域の特徴が健康づくりに与える影響について理解する。</p> <p>3) 地域で健康を守る場とその人々について理解する。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	地域と暮らし	人々の暮らしとはなにか ライフサイクル		講義	専任教員		
2	地域の特徴1	岐阜県の特徴 東濃・中濃・西濃の特徴 多治見市の社会的環境・文化的環境・自然環境		講義			
3	地域の特徴2	多治見市の社会的環境・文化的環境・自然環境 地域の特徴が健康に与える影響		講義			
4	地域の特徴と健康づくり1	健康と生活 ライフステージにおける健康障害		講義			
5	地域の特徴と健康づくり2	健康を守る場と人々・各職種の専門性 地域での多様な看護の場		講義			
6	地域と暮らしを支える看護	地域包括ケアシステムにおける看護の役割		講義			
7	地域と防災	岐阜県の防災対策 地域の防災拠点		講義	外部講師		
8	試験（1h）				専任教員		
評価方法		レポート	50点				
		筆記試験	50点				
参考文献と資料		<p>テキスト： 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論（1）（医学書院） 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論（2）（医学書院）</p>					
事前準備や受講要件等							

授業科目	地域・在宅看護各論 I	担当 教員	専任教員 外部講師	単位数	1	時期	2年次 6月～
				時間数	30		
<p>目的：在宅看護の対象および、在宅看護の特徴を理解する。</p> <p>目標：1) 在宅看護が必要とされる背景及び在宅看護の目的を理解する。</p> <p>2) 在宅看護の対象及び特性を理解する。</p> <p>3) 在宅看護の仕組みと制度、社会資源と連携について理解する。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	在宅看護の目的と特徴 1	在宅看護とは・社会的背景と在宅看護の目ざすもの		講義	専任教員		
2	在宅看護の目的と特徴 2	在宅看護における看護師の役割と機能		講義			
3	在宅看護の対象 1	対象者の特徴と理解		講義			
4	在宅看護の対象 2	在宅看護の対象者としての家族 家族のとらえ方		講義			
5	在宅看護のしくみ 1	訪問看護の歴史と創設 社会保障制度		講義			
6	在宅看護のしくみ 2	介護保険制度 ケマネジメント		講義			
7	在宅看護のしくみ 3	訪問看護と制度		講義			
8	在宅看護のしくみ 4	各種保険・障害者等に関する法律と施策		講義			
9	在宅看護の展開 1	在宅看護過程展開のポイント 社会資源・多職種との連携		講義			
10	在宅看護の展開 2	地域包括ケアシステム 地域における包括支援の実際		講義	外部講師		
11	在宅看護の展開 3	訪問看護ステーションの機能と役割 訪問看護の実際		講義	外部講師		
12	在宅看護の展開 4	在宅看護を支える社会資源と連携 1		講義	専任教員		
13	在宅看護の展開 5	在宅看護を支える社会資源と連携 2		講義			
14	在宅看護の展開 6	在宅看護を支える社会資源と連携 3		講義			
15	まとめ・試験						
評価方法		筆記試験 95点 事前課題 5点					
参考文献と資料		テキスト：地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論（1）（医学書院） 地域・在宅看護の実際 地域・在宅看護論（2）（医学書院）					
事前準備や受講要件等		居住地域の社会資源、地域包括支援センター、保健センター 社会福祉協議会の活動について調査					

授業科目	地域・在宅看護各論Ⅱ	担当 教員	専任教員	単位数	1	時期	2年次 11月～
				時間数	30		
<p>目的：在宅療養を継続するために必要な支援のあり方と方法を理解する。</p> <p>目標：1) 在宅看護における安全性の確保について理解する。</p> <p>2) 在宅における日常生活の援助方法を知り、事例にあわせた援助方法が理解できる。</p>							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	対象者の権利	対象者の権利保障 在宅看護における倫理			講義	専任教員	
2	安全性の確保 1	在宅看護におけるリスクとは 医療事故防止・感染防止			講義		
3	安全性の確保 2	災害時の在宅看護			講義		
4	生活を支える援助技術 1	活動を支えるコミュニケーション			講義		
5	生活を支える援助技術 2	呼吸機能に関する技術			講義		
6	生活を支える援助技術 3	食生活・嚥下に関する技術			講義		
7	生活を支える援助技術 4	排泄・移動・移乗に関する技術			講義		
8	生活を支える援助技術 5	清潔に関する技術			講義		
9	清潔援助の実際 1	事例に対する援助計画の立案			講義		
10	清潔援助の実際 2	計画に沿った援助の実施・・・物品の工夫			講義		
11	清潔援助の実際 3	計画に沿った援助の実施・・・ロールプレイ			演習		
12	清潔援助の実際 4	計画に沿った援助の実施・・・ロールプレイ			演習		
13	清潔援助の実際 5	発表 対象に応じた援助方法の違い			講義		
14	訪問看護における礼節	訪問マナー・実習に向けた心構え・訪問記録			講義		
15	まとめ・試験						
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論（1）（医学書院） 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論（2）（医学書院）					
事前準備や受講要件等							

授業科目	地域・在宅看護各論Ⅲ	担当 教員	専任教員 外部講師	単位数	1	時期	2年次 10月～
				時間数	30		
<p>目的：在宅療養を継続するために必要な支援のあり方と方法を理解する。</p> <p>目標：1) 家族を看護の対象として捉えることの重要性が理解できる。</p> <p>2) 現代家族の問題を、多様な観点から捉え、援助提供の方法を理解できる。</p> <p>3) 在宅療養移行期間の看護とアプローチが理解できる。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	家族看護とは	家族看護の特徴と理念 ライフサイクルと家族・コミュニティと家族		講義	外部講師		
2	家族とは	家族の捉え方 家族機能 現代家族の課題		講義			
3	家族看護を支える理論	家族を理解するための理論 家族の変化を把握するための理論		講義			
4	家族に変化をもたらすための介入	家族に介入し機能を高める家族療法 家族を支える介入		講義			
5	家族看護の展開方法	情報収集の技術 アセスメント 看護計画の立案		講義			
6	家族看護の実際 1	事例に基づく家族看護の実際(慢性期、終末期)		講義			
7	家族看護の実際 2	事例に基づく家族看護の実際(小児、精神疾患患者他)		講義			
8	在宅療養移行への看護 1	事例展開 情報収集とアセスメント		講義	専任教員		
9	在宅療養移行への看護 2	在宅療養移行期間での看護		講義			
10	在宅療養移行への看護 3	在宅療養移行期間での看護と多職種連携・協働		講義			
11	継続看護 1	退院調整と退院支援		講義	外部講師		
12	継続看護 2	継続看護の意義と方法 (サマリーの記入)		講義	専任教員		
13	リハビリテーションの実際 1	日常生活障害へのアプローチ		講義	外部講師		
14	リハビリテーションの実際 2	住環境とさまざまな自助具		講義			
15	まとめ・試験				専任教員		
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		<p>テキスト：</p> <p>回数1～12 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論(1)(医学書院) 地域・在宅看護の実際 地域・在宅看護論(2)(医学書院)</p> <p>回数1～7 家族看護学 (医学書院)</p> <p>回数13～14 リハビリテーション看護 (医学書院) 地域・在宅看護の実際 地域・在宅看護論(2)(医学書院)</p>					
事前準備や受講要件等							

授業科目	地域・在宅看護各論Ⅳ	担当教員	外部講師 専任教員	単位数	1	時期	3年次 4月～
				時間数	30		
<p>目的：医療依存度の高い療養者と家族に対する援助のあり方と方法を理解する。</p> <p>目標：1) 症状・疾患に対する在宅療養者への援助と看護の実際を理解する。</p> <p>2) 在宅での医療処置に伴う援助を理解する。</p> <p>3) 対象および家族の価値観・生活様式を尊重した看護の展開方法を理解する。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	在宅医療技術 1	褥瘡・尿道留置カテーテルのケア ストーマケア		講義	専任教員		
2	在宅医療技術 2	経管栄養時のケア 疼痛緩和ケア・放射線療法時のケア		講義			
3	在宅医療技術 3	化学療法時のケア 在宅輸液療法時のケア		講義			
4	在宅医療技術 4	在宅酸素療法・非侵襲的陽圧換気療法の実際		講義			
5	在宅看護技術 1	栄養状態改善のケア NST		講義			
6	在宅看護技術 2	在宅で最期を迎える療養者の看護 グリーフケア		講義			
7	在宅看護の実際 1	在宅看護介入時期別の特徴		講義	外部講師		
8	在宅看護の実際 2	脳血管障害の療養者の看護 パーキンソン病の療養者の看護		講義			
9	在宅看護の実際 3	認知症の療養者の看護 小児の療養者の看護		講義			
10	在宅看護の実際 4	人工呼吸療法を実施する療養者の看護 在宅酸素療法を実施する療養者の看護		講義			
11	在宅看護の実際 5	独居の療養者に対する在宅看護		講義			
12	在宅看護の実際 6	終末期療養者の看護 1		講義			
13	在宅看護の実際 7	終末期療養者の看護 2		講義			
14	在宅看護の実際 8	精神疾患療養者の看護		講義			
15	まとめと試験				専任教員		
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		テキスト：地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論（1）（医学書院） 地域・在宅看護の実際 地域・在宅看護論（2）（医学書院）					
事前準備や受講要件等							

授業科目	地域・在宅看護各論V	担当 教員	専任教員	単位数	1	時期	3年次 11月～
				時間数	15		
<p>目的：保健・医療・福祉の提供に向けて、お互いの職種の特性を活かしながら、対象の目標達成、問題解決に向けてよりよい方法をともに検討し、実現をめざす能力を養う。</p> <p>目標：1) 多職種の専門性と役割を学び、看護職と多職種の共通性、違いについて理解する。 2) 多職種で対象者の目標達成、ケアの質の向上に向けて、ともに深く考えることができる。 3) 多職種との関わりから職業倫理や臨床倫理について考えることができる。 4) 多職種協働・連携に向けての展望及び看護の専門性を考えることができる。</p>							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	多職種連携の意義	多職種連携の意義と学習目的 看護職の専門性・役割 多職種の専門性・役割		講義	専任教員		
2	各職種の理解 共通性の基盤づくり	多職種の専門性・役割について発表会・意見交換		講義			
3	事例検討1	嚥下障害のある療養者への援助		講義			
4	事例検討2	嚥下障害のある療養者への援助		講義			
5	専門職連携の実際1	他学科・他校とカンファレンス(発表会、意見交換)1		講義			
6	専門職連携の実際2	他学科・他校とカンファレンス(発表会、意見交換)2		講義			
7	多職種連携の意義と 方法	多職種の専門性・役割の実際について 看護の専門性 職種協働・連携に向けての展望		講義			
8	まとめ(1h)	演習をとおしての学び・レポート作成		講義			
評価方法		レポート					
参考文献と資料		テキスト：地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論(1)(医学書院) 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論(2)(医学書院)					
事前準備や受講要件等							